高齢者の絵本の読み聞かせボランティア活動と認知機能

(2)「ももたろうの語り」に対する読み聞かせ経験の効果

○齋藤有²・佐久間尚子¹・菊地紫乃²・鈴木宏幸¹

(¹東京都健康長寿医療センター研究所・²お茶の水女子大学)

キーワード：認知的介入，ももたろうの語り，経験の効果

Volunteer activities of reading picture books and cognitive function in the elderly;(2) An effect of reading experience on 'Momotaro' telling.

Yu SAITO², Naoko SAKUMA¹, Shino KIKUCHI², and Hiroyuki SUZUKI¹

(¹Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²Ochanomizu Univ.)

Key Words: cognitive intervention, 'Momotaro' telling, experience effect

目 的

本研究では“REPRINTS”研究¹の7年間の継続効果を測定するため新たに導入された「ももたろうの語り」課題に焦点を当てる。語りは高齢者の日々の読み聞かせ活動の効果に対してより敏感な指標であると考えられる一方、「ももたろう」が広く一般に知られた題材であるため、課題成績を介入効果だけでは説明できない可能性がある。しかし、高齢者に「ももたろう」がどの程度なじみあるのか、その経験が課題成績に影響するのかわかるかは明らかでない。そこで本研究では「ももたろう」に関する高齢者の経験を面接内で質問し、その実態を明らかにするとともに、課題成績に対する介入と経験の効果の交互作用があるのかわかるかを検討する。

方 法

対象者 REPRINTS 研究、追跡7年目(F7)の評価に参加した184名である。対象者の群ごとの情報を表1に示す。さらに詳細な情報は連名の佐久間の発表を参照。

表1 本研究の対象者の属性

	介入群	変更群	対照群	計
N	69名	18名	97名	184名
平均年齢(F7)	73.1歳	74.7歳	74.4歳	74.1歳
平均教育年数	13.0年	13.1年	12.2年	12.8年
MMSE(30点)	28.8点	28.7点	28.7点	28.7点
ももたろう得点	39.0点	38.9点	29.7点	35.9点

F7：追跡7年目 ももたろう得点：「ももたろうの語り」課題得点

経験についての質問 「ももたろうの語り」課題終了後に、
(1)聞いた経験「誰かからこのお話を聞いたことがありますか」
(2)読んだ経験「自分でこのお話を読んだことがありますか」
(3)読み聞かせ経験「誰かにこのお話を読み聞かせたことがありますか」の3側面の経験とその時期について尋ねた。

ももたろう得点 物語の基本情報を50項目選定し、正再生の項目数を得点とした。採点法の詳細は連名の菊地の発表を参照。

結 果

分析方針 ももたろう得点は介入群と変更群で同程度に高く、対照群で低かった($F(2,181)=14.90, p<.001$)。変更群はいずれも介入群から対照群への変更で、REPRINTS活動への参加経験があることから、本研究では変更群を介入群に含めて分析を行った。なお、介入群の男性1名が課題を辞退したため、以下の分析からは除外した。

「ももたろう」に対する経験 結果を図1に示す。群にかかわらず約8割の高齢者が「ももたろう」を「聞いた」「読んだ」経験をもつ一方で、「読み聞かせ」経験は両群とも約5割だった。「読み聞かせ」はREPRINTSの活動内容にも重複する。そこで以下の分析では、ももたろう得点への介入効果と「ももたろう」の「読み聞かせ」経験の効果との関連を見る。また、読み聞かせを経験した時期を介入時期に重なる10年以内とそれ以前に分類すると、介入群では10年以内での経験が多かった($p<.01$)。そのため、今回は介入効果に対する「読み

聞かせ経験の時期」の効果についても検討していく。

図1 「ももたろう」経験の有無(グラフ内の数値は人数)

ももたろう得点に対する介入効果と経験効果 ももたろう得点に対して、群(介入・対照)×読み聞かせ経験(有・無)の2要因分散分析を実施したところ、群の主効果のみ有意($F(1,176)=33.27, p<.001$)で、読み聞かせ経験の有無にかかわらず、介入群では対照群よりも得点が高かった(図2)。次に、読み聞かせ経験がある高齢者の中で、群(介入・対照)×読み聞かせ経験の時期(10年以内・10年より前)を分析した結果、同様に群の主効果のみ見られ、読み聞かせ経験の時期にかかわらず、介入群で得点が高かった($F(1,85)=13.48, p<.001$)。

図2 「ももたろう」読み聞かせ経験別の平均得点

考 察

本研究より、「ももたろうの語り」課題得点には介入効果が見られ、題材である「ももたろう」を「読み聞かせた」直接経験の有無にかかわらず、介入群の得点が高かった。このことは、子どもたちに読み聞かせをするREPRINTSの活動が、そこで用いた題材を超え「語り」という行動一般へ般化したことを示している。今後は、「語り」の再生された情報量だけでなく、韻律情報や語りの構成の仕方といったより質的側面から「語り」に対する介入や経験の効果を検討していきたい。

引用文献

1. 藤原佳典, 他(2006). 都市部高齢者による世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム: "REPRINTS"の1年間の歩みと短期的効果. 日本公衆衛生学会誌, 53, 702-714.

謝辞 本研究は厚労科研 H16-長寿-031(代表: 新開省二), H19 三井住友海上福祉財団(代表: 藤原佳典), 文科研 H22 基盤 C(代表: 佐久間尚子)の研究助成を受けた。共同研究者の皆様へ感謝申し上げます。